

創刊 平成14年(2002)6月5日

# ちば環境再生県民の会

ちば環境再生県民の会広報

・第42号 発行日・令和3年(2021年3月25日発行)

## 令和2年度の第1回ちば環境再生推進委員会が開催されました。

発足当時より委員長を務めてこられた田畑貞寿氏が委員会を勇退され、橋立辰夫氏に交代されました。田畑委員長には長い間本当にご苦労さまでした。

千葉県環境再生委員会は発足して約20年を経ました。

堂本知事の発案で、600万人県民一人500円コインの募金して自発的に千葉県の環境再生活動に参加する募金として、歯科医院や大企業の職員組合、ホテルなどにも募金箱を設置していただき募金活動も発足した。

推進委員会にはキャンペーン部会、助成部会、負の遺産部会、モデル事業部会に委員が属して委員会活動を推進してきました。また「とりもどそうふるさとの自然」と染め抜いた旗を立てて県民の集まるところで募金活動も広げてきました。

県民の会はこの委員会の内容を県民に知らせる事を目的に設立されました。

委員会の始めの活動ではモデル事業部会に属して菜の花の種をまき、黄色い菜の花を各団体の地域で咲かせてタネを取り、油を搾り、食に利用し、その後、廃食油でせっけんを作ることで、身近なところで”資源の循環を見えるようにしよう”というスローガンで、当県民の会の役員たちは御宿町、我孫子市、習志野市、酒々井町、船橋市などでそれぞれの仲間や「こども会」や地域のスポーツ団体もプリーサイトや空き地にも菜の花の種やヒマワリの種をまいて大きく育てて、タネの収穫と搾油までを展開をしました。

松戸ではJFSA千葉、こども会など3団体に協力を得てすばる書店さんの前庭での活動と、保育園のとなりの大津川の流れていた川を用水路にした上を埋め立て活動場所としました。大津川沿いの活動場所では、1年目は地区の植木屋さんの協力で耕運機で草取りをして種まきまでの整地をして、アースコン松戸の皆様と六高台のお母さんの有志がタネ播きをしていただきました。暑い夏に、広い畑の草取りもしました。猛暑が継続した時期には長い時間は危険なので、朝早くに作業をしていただきました。夫たちも土日の朝などに協力をしてくれました。本屋さんの活動場所では千葉工大の学生やJFSA千葉のメンバーも駆け付けて、猛暑の7月・8月を慣れない草取りに追いかけて収穫までの作業していただいたこともありました。足掛け5年間、こうした活動を継続することができました。このような農作業と言えない作業ですが、毎日毎日長い間して来たおかげ様農場の高柳さんや農家の方々の苦労が身にしみました。

この間にはすばる書店の協力でパーキング場にて広く地域住民対象に温暖化防止の活動をアピールする参加団体の持ちよりのフェアを開催できました。

JFSA千葉とは県内から古着を集めてパキスタンのこどもたちの学校設立と給食を継続する活動に協力しました。パキスタン市民が自らバザールで販売して生活を維持し、こどもたちを学校に通わせる支援活動を行いました。こうした学校運営まで含めた支援活動や天然ガス自動車(20年前は屋内にボンベを積載していました)を導入・展示することで、広く環境活動をアピールしました。

\*また松戸市を流れる江戸川の土手の畑は老人会メンバーが広い畑に種をまき、花を咲かせて草取り種取りをして、収穫された菜の花やヒマワリの種を収穫しました。財団から借用した搾油機は、「がまの油売りの口上」のような遅々として進まない機械でしたが、この搾油機からは透きとるきれいな油が取れて歓声をあげたこともありました。搾油の油におかげ様の油を混合した貴重な油でドーナツを揚げて来場者に配布しました。このドーナツ作りと配付は、数年間のエコメッセや地域のお祭りでもパネル展示をして菜の花エコ・ヒマワリエコを知らせる活動の目玉でした。

松戸市古賀崎の老人会は江戸川の河川敷でヒマワリエコの活動をして、収穫後は古賀崎小5年生の生徒たちとひまわりの花からの搾油体験をして、貴重な油でドーナツを揚げその後家庭から集めた廃食油を混ぜてせつけん作りをしました。

3月には菜の花エコプロジェクト大多喜会議を開催して、同志の方々が県内から集まりました。大多喜町では夷隅鉄道の脇に菜の花の種をまき菜の花が咲く両側に夷隅鉄道も廃食油利用のエネルギーで走らせることが出来たらと試行錯誤して検討されました。最終的には0.5%利用のBDF燃料で当日は知らせる事が出来ました。しかし残念ながら許認可の事や量産の事など他があり継続が出来ませんでした。

菜の花エコとヒマワリエコに参加した団体で今も継続しているのは「おかげ様農場」の仲間たちです。広く作付をして、参加メンバーの方々のそれぞれの畑で作付をされたひまわりとなの花の種は収穫後集めて搾油工場に運ばれて、きれいな油になり瓶に加工されて販売をしています。

美味しいこくの有る油に出来あがります。この油にかかる手間暇を裏切らないです。  
\*負の遺産部会では役員が自転車にのり佐倉の不法投棄の夜間見回りなどにも参加して怖い思いをした方もありました。

一人ひとりが活動をしてこの基金の助成意義を知り地域の中で環境学習を展開する仲間や学校などの活動団体にも広がりました。

令和2年11月26日現在の委員

区分	委員氏名	所属	代理出席等
学識経験者	橋立達夫	作新学院大学名誉教授	
	榊瀧俊子	元淑徳大学教授	
県民代表	桑波田和子	(特非) 環境パートナーシップちば代表理事	
	上山精一	千葉県生活協同組合連合会専務理事	欠席
	中岡丈恵	ちば環境再生県民の会代表	
地元産業界	宮島三郎	(一社) 千葉県商工会議所連合会専務理事	
	鈴木 勝	千葉県商工会連合会専務理事	
	岩津 由雄	(一社) 千葉県経済協議会専務理事	
	小茂田勝己	千葉県農業協同組合中央会専務理事	欠席
環境関係	杉田昭義	(一社) 千葉県産業資源循環協会会長	
千葉県	富塚昌子 (針谷 謙一)	千葉県環境生活部長 (循環型社会推進課 副課長)	(代理)

敬称略

(3) 助成金説明会及び活動成果発表会

① 日時・場所

令和元年10月30日(水) 千葉市生涯学習センター

② 参加者

説明会出席者、成果発表者等 約60名

(4) 助成事業(R2年度活動)の募集

① 募集期間

令和元年11月1日(金)～12月15日(日)・・・当日消印有効

② 審査・交付決定

・第1次審査 : R2年1月22日

・第2次審査、プレゼン : R2年2月27日

・交付決定 R2年4月1日付け

<再生基金助成事業審査結果>

助成事業		申請数	申請金額(千円)	備考
県民の環境活動支援事業	10万円以下	31	2,895	
	25万円以下	19	3,277	
	25万円以上	17	6,831	
提案型環境再生事業		0	0	
環境活動見本市等普及啓発支援事業		2	3,000	
未来の環境活動担い手支援事業		2	200	
廃食油燃料利用促進プロジェクト	回収/13件	2	200	
	収集/5件	0	0	
負の遺産対策事業		0	0	
		73	16,403	

2 令和2年度事業計画について

(1) 再生基金助成事業

(2) 啓発・募金活動

(3) 令和元年度助成事業活動成果発表会の開催

(4) 助成事業(2021年度活動)の募集

\*皆様の大切な基金です、活動の原点立ち上がりに、活動の広がり基金を応募をしてください。

エコメッセ 2020 を終えて

エコメッセちば実行委員会 谷合 哲行

世界的な COVID-19 感染拡大により、25 回目となるエコメッセ 2020in ちばは全企画オンラインでの開催となり、2020 年 11 月 1 日(日)から HP 上で公開されています。今年は「SDGs 暮らし方改革」をテーマとして掲げ、オンライン出展をしていただいた 59 団体の紹介動画が来年のエコメッセ開催までの約 1 年間、HP 上に公開されます。また、当日企画として県主催のオンラインセミナー「みんなで創ろう SDGs! - 環境・経済・社会的課題の同時解決 -」と、実行委員会企画であるオンラインパネルディスカッション「SDGs ユース会議 2030 - 「行動の 10」をどう過ごすか -」が開催された。どちらの企画も zoom という TV 会議システムが採用され、事前登録された方は chat などの機能を通じて同時双方向的な議論を体験できる機会となりました。また、オンラインでのやり取りは YouTube を通じてライブ配信され、登録していない一般の人でも視聴できるような体制で実施させ、多くの一般の方にも会議の様子を配信することができました。当日の推定来場者数は県のオンラインセミナーが約 300 人、実行委員会企画が約 60 人でした。2015 年に国連が提唱・採択した 17 分野の開発目標 SDGs 達成のための活動が国内でも普及し、行政、企業、市民団体など多くの団体の活動に取り込まれ、学生団体の活動でも取り上げられていることが紹介されました。

出展団体の募集は 4 月から開始していましたが、当初は COVID-19 の感染問題がこままで拡大するとは予想していなかったため、幕張メッセでの会場開催とオンライン開催を併催することも考えましたが、7 月中に会場開催を断念して 8 月からはオンライン開催のみにすることを決めました。会場開催に募集していただいた団体には、団体紹介の PR 動画の作成・提出を依頼し、多くの会場出展予定団体が紹介動画を提出してオンライン出展に切り替えていただくことができました。一方、やはり一部の市民団体は会場開催なら参加できるが団体紹介動画を製作することができず、オンライン開催への出展を断念する団体もありました。やはり短期間での動画作成は市民団体には高いハードルになってしまいました。実行委員会では写真とコメントを提出していただければ、動画を製作します、というサービスを行いましたが、そうしたサービス利用してでも出展したいという団体は少なく、オンライン出展団体数は 59 団体にとどまってしまいました。来年も with COVID-19 という状況はあまり変わらないのではないかと予測され、IT 弱者・IT 弱団体へのサポートも検討したいと思えます。

出展された団体動画は約 1 年間エコメッセの HP に掲載されます。公開からの 1

The screenshot shows the website for 'Eco Messe 2020 in Chiba'. The main header features the event title and date: '2020年11月1日(日) オンライン開催'. Below this, there are two main event sections. The first is an online seminar titled 'みんなで創ろう! SDGs! ~環境・経済・社会的課題の同時解決~' (10:00-12:00), featuring speakers like 佐藤真久氏 and 島田千代子氏. The second is an online panel discussion titled 'SDGs ユース会議 2030 ~「行動の10年」をどう過ごすか~' (14:30-16:15), moderated by 伊藤裕也氏. The website also includes contact information for the organizing committee and QR codes for registration.

か月で総閲覧数 5000 アクセスを超えています。また、1年間継続的に公開されることで、企業などにとってはたいへん長期的な PR 効果が期待できる開催形態となっています。また、SDGs の 17 のゴール別に出展団体を分類して掲載しているのも、興味関心のある分野に取り組んでいる企業・団体を見つけやすいページになっています。

イベントスタートから四半世紀、新しい体制で臨んだ 2020 年度でしたが、COVID-19 というこれまで経験したことのない禍に見舞われ、これまでとは全く異なる形態のイベントになってしまいました。実際の企画・運営は限られた少数のメンバーにしか関わることができず、負担が集中するばかりでなく、これまで関わっていただいていた多くの運営委員の方やボランティアの方にとっても関わりにくいイベントになってしまいました。エコメッセちばは 2021 年度も開催を計画しています。日程などの詳細はまだ分かりませんが、2020 年度の当初予定した会場開催とオンライン開催を併催することを目指して準備を進めたいと考えています。with COVID-19 時代でも多くの人に関わっていただき、スタッフにとっても出展者にとっても、参加者にとっても充実感・達成感のある”エコメッセ”を目指したいと思います。

### With COVID-19 渦中で真価を発揮した「シェアスペース・なんか」

居場所づくりの会 谷合哲行

2019 年 5 月から本格的な活動を開始した「シェアスペース・なんか」ですが、2020 年 2 月から広がり始めた COVID-19 感染拡大問題と緊急事態宣言の発令を受け、4 月の総会は延期、4 月、5 月の 2 か月は施設の団体利用を中止せざるを得ませんでした。また、6 月から施設の利用は再開しましたが、個人利用を中心として、団体での利用はかなり制限されてしまいました。2020 年度上期は会としての活動ができなかったことから、会費の徴収はせず、定例会も zoom などのオンライン会議を中心として任意参加での開催になってしまいました。

公民館なども利用を制限され、多くの市民団体が活動場所・会合場所にも事欠くような状況の下で、10 人程度の会合ができる貴重な場所として「なんか」が利用されるようになりました。また、wi-fi 環境が整っていることからオンラインでの会合に参加できる場所として、個人・団体で利用していただく機会が急増しました。実際、自宅では家族や生活音があってもなかなか参加できないオンライン会議も「なんか」からであれば、そうした周囲の人への気兼ねなく参加できるのでリモートワークの作業場所としてのニーズにもこたえられると思っています。

7 月からは小規模の講習会を再開しましたが、HP 作成講座や zoom 活用講座、パワーポイント活用講座や動画作成講座など、with COVID-19 渦中の団体活動をサポートする企画を実施して、各団体が様々なオンラインイベントに参加できるようなコンテンツ作りをサポートすることができました。こうした講座の受講生が作成した PR 動画がエコメッセ 2020in ちばや千葉市民活動フェスタ、ひがふなフェスタなどのオンラインイ



ベントに出展され、公開されています。新しい活動はできなくても、これまでの活動を新しい形で公開することで、団体活動の側面支援につながれば幸いです。また COVID-19 の感染拡大に伴い、zoom という安価な TV 会議システムが普及してきましたが、多くの市民団体にとっては実際の活動にどう活用できるのかよくわからないという声がありました。そこで、居場所づくりの会として、定例会などに zoom を導入し、定例会の中で基本的な利用方法を講習するとともに、別途 zoom 活用講座を開催し、zoom を動画のアフレコに利用したり、講習会に利用したり、団体紹介用の PR 動画の作成をおこなったりとオンライン型の様々な活動の可能性を紹介する機会を提供いたしました。

こうした地道で時宜に適した講座を続けてゆくことで、団体としての活動を控えていた上期の間にも会員数が増え、10 月から始まった下期は個人会員 21 人、団体会員 6 団体になりました。新しく入会した団体ではミニギャラリーを開催し、作品の展示即売をしつつ、会員同士のつながりを確認し合う交流の場として”なんか”を利用していただくことができました。また、地元の茶道の先生を招待したミニお茶会やつまみ細工ワークショップ、ケアする人たちの集いの会など、新しい活動もスタートしています。

居場所づくりの会では、どなたでも関われる「居場所」を作り、関わってくれた方の夢を形にする手伝いをしたいと考えています。with COVID-19 渦中でも”何かをしたい”と思っている全ての人に、夢を形にできる場所として“なんか”での活動をつづけてゆきたいと思っています。我々の活動に興味関心をお持ちいただけましたら、ぜひ HP をご覧いただき、お気軽にご連絡ください。

HP : <https://dribasyo.wordpress.com/>

連絡先 : 居場所づくりの会 代表 谷合哲行 ([drtaniai@mx3.ttcn.ne.jp](mailto:drtaniai@mx3.ttcn.ne.jp))

おかげ様農場・高柳 功  
(産地の声) vol. 1470

2021. 1. 6

明けましておめでとうございます。

年末 30 日にお餅つきをして 31 日には、しめ縄を緋い、神棚に飾ります。そして小机をだして、お正月様の棚作りです。天照皇大神と地元の大須賀大神の掛け軸を飾り、机の上には二重ねの鏡餅にミカン、そして大根を土台にした松の枝と

幣束を飾ります。これでお正月様のできあがりです。

同時に、台所の荒神様(かまどの神様)、神棚、恵比須大黒様、仏壇、そして氏神様に同様の二重ねのお餅をあげて準備完了。新年を迎える準備を整えます。

そして年の変わる 12 時近くに連れ合いと毎年お参りするお寺さんへと出かけました。我が家は真言宗豊山派と呼ぶ宗派に属するのですが、その基幹寺は関東三大師と呼ばれる観福時というお寺さんです。今年始めのお参りです。

コロナで人出は少ないかと思ったら結構な人出でした。真言宗ですので護摩札を戴く人が多く、厄除け、コロナ除け? など祈願する人が多かったように感じました。

家に帰り、みんなでお餅づくしです。きなこ餅と雑煮餅、里芋の煮物、相変わらずのきんぴら、サニーレタスと大根人参のサラダ、ほうれん草などで新年の挨拶を交わしてごちそうになりました。

とまあ、これが我が家の年越しと新年を迎える姿です。近年は省力文化で餅つきをする家が少なくなってきましたが、動ける内は我が家の伝統文化を守り続けたいと思っています。皆さんはどのような年越しだったのでしょうか。

2020年はコロナ騒動の年でした。

収まると思いきや今日1月6日には過去最多の6千人の感染者が出たとのこと。が正直なところ実感がわきません。

専門家でもないのにはばかれるのですが、私はインフルエンザと同等かちょっと重症化するかも知れない程度なんではないか、と受け止めているのです。

ウイルスは絶滅することはできません。共存するしかないという生物学者の理は正しいと思います。仮にコロナ抑えても、次にはまた新しいウイルスが発生するでしょう。サーズがありマーズがあってコロナです。次は？

無農薬栽培は化学毒を避けるためというより、自然の力で育った生命力ある野菜やお米を育てようとするところにその意味があると思います。「人間は食べたものでできている」と標語がありました。ご健勝のほどを願っています。合掌

おかげさま農場・高柳  
(産地の声) vol. 1471

2021. 1. 13

今年は今月4日が小寒。20日が大寒で暦の上では一年で最も寒いとされている季節です。気象庁によればいまだかつてない寒波が北陸、北日本に大雪をもたらしています。当地もその寒波と思われる影響か庭の水たまりの氷が日中も溶けずにいます。太陽が出ればまだいいのですが曇り空で野菜が生き返らずに凍り付いたままという現象がでています。

さっそくというか、お客さんから大根の葉がしおれているんですが、、、とクレーム？を戴きました。当農場は、大根も市販されるモノとは違って、葉付きで収穫出荷しています。大根の葉っぱも食べていただきたいと考えているからです。命を丸ごと食べていただく栽培です。市販のモノは農薬散布もあり、葉を切りなお洗っての出荷ですからちょっと違うのです。

ここのところマイナス5～6度の低温(朝方)でした。日が昇り太陽が霜を溶かし、大根に生気が戻るまで待つて収穫することになるのですが、あいにく曇り空で日中の気温が3～4度程度だと生気が戻りきらないこともあります。

現物写真を送ってもらったのですが、多少しおれ加減です。が食べる分にはさしつかえないのではないかと寒さの冬の野菜の現状を説明させていただきました。

真冬は青物野菜が不足する季節です。市場に出回る多くのはハウス栽培が主流です。当農場は露地野菜が多いので自然の成り行きに任せるしかないときがあるのです。私たちも同じものを食べています。少しの間しのいでください。

寒が明ければ状況は変わってきます。

今寒中に田んぼの耕耘をしています。刈り穂の残る株の田んぼは枯れ野といった感じですが、反転された田んぼは黒々とした肥沃な田んぼに変わります。そこに小鳥が舞い降り掘り返された中の子虫やらをつついてまわります。

セキレイが数十羽、シラサギやアオサギなども一緒になってついばんでいます。寒中に田起こしをすると虫や草の種も少なくなる、といった古老の話がありましたが、そうならばいいなあと思います。防寒対策をしっかりと田起こしをしてたのですが、耳タブが凍傷にかかったようです。平家物語の耳なし法一の話しを思い出してしまいました。

前にも書きましたが、コロナ対策は生命力のある野菜やお米をしっかりと食べ生命力、免疫力を高め体温を高めて乗り切りましょう。我が家のスローガン！です。

おかげさま農場・高柳功  
(産地の声) vol. 1472

2021. 1. 20

コロナの蔓延で、コロナ緊急宣言がだされていますが皆さんはいかがお過ごしでしょうか。我が家は先週も書きましたが、相変わらず、しっかり伝統食＝ご飯に味噌汁、そして大根や人参、ゴボウ里芋などに少々のお魚、そしてレタス中心のサラダに自前のひまわり油をドレッシングにしたり、ほぼ自前の食です。

ウイルス警戒の中ですが、ウイルスは人間だけでなく植物界、動物界の中にも存在します。私の経験で興味深かったのはヤマユリを栽培の経験です。

ヤマユリは日本の固有の百合といわれています。その種は今頃の木が枯れた秋冬に山に入り掘り取るということから始まります。ヤマユリは種を取ることができないといわれています。咲いた花から実をつけますが、それを畑に種まきしてもうまく芽が出ず、芽が出ても育たない、消えてなくなってしまうのです。

それで、山に入り残った百合の枯れ木を目印に掘りとり種としてきました。そして畑に植えるのですが、一番の障害はウイルスにかかってしまうことです。どういうわけか栽培となるとウイルスに感染するのです。百合は鱗片が何枚も重なって肥大します。ウイルスに感染するとその鱗片がばらばらになってしまうのです。また、植えた大きさより小さくなってしまうこともあります。

そんなウイルスに感染した球根は売り物にならないので、山に捨てます。そうすると全部ではありませんが、ウイルス状態から元気になる様子が見て取れるのです。いかに自然に近づけようとしても人間が手を入れたこと自体が本来の自然から遊離するのでしょう。

私たちの育てる野菜も同じくウイルスに感染します。また、最近千葉県の養鶏場鶏で200万羽以上がインフルエンザ感染しその養鶏場の全てが処理されています。それだけでなく、養豚場でもウイルス感染で数千頭が、これも全て処理されています。数年前は牛舎への感染で宮崎県ではこれも数百頭が処理されています。

要するに人間界だけでなく、植物や動物など広い範囲にわたって防衛できないほどウイルスは存在するという現実に向き合っています。

時に識者は、地球の片隅に潜んでいたウイルスが飽くなき人間活動によって掘り起こされ、行き場所がなくなり人と接触、かつグローバル化という地球レベルの広範囲に渡って活動する人間によって拡散が起こっている。と言う人もいます。

日本人の伝統食味噌汁やお醤油、漬け物という発酵食＝自然の力を食に生かす知恵や技が民族の生命力の源なのではないか、我が家のもつばらの話しです。

おかげさま農場・高柳功  
(産地の声) vol. 1473

2021. 1. 27

寒が明け、1週間後には立春、節分を迎えるというのに天候は勝れず雨模様です。そして予報によれば週末にはまた強い寒気がくるというのですから中々思い通りにゆかないものです。

その寒気で今年は4カ所水道管が破裂し、噴水のように水が噴き出し結構慌てました。最近ではホームセンターでも水道部品が豊富になっていますので、壊れた部品を持って買いに行きます。

ハウス内の飛び出た水栓、ポンプ小屋の水栓、直売所2階の水栓、工房のシャワー水



栓と、順次部品をそろえ修理し終えるまで1週間近くかかりました。それというのも、そろえた部品を吟味したつもりが結局つなぎが合わなかったりしたのでお店と行ったり来たり、部品不足でまた行ったり来たりとなれない修理仕事でした。何とか回復で一安心です。

先週は天気が良く、晴天が続くと思って田んぼいきました。田んぼの改良は冬の仕事です。バックホーという機械を見たことがあると思いますが穴を掘る機械です。田んぼを掘り排水をよくするために暗渠をやり直したり泥がつまった排水溝を堀上げるのです。

基盤整備という事業がありますが、それはでこぼこの耕地や水はけの悪い水田、形の悪い農地を改善する仕事です。今は機械の時代ですので、機械がスムーズに作業できる耕地にする仕事は大事です。

農家は田づくり＝田を作ると言いますが、毎年一枚一枚田づくりをすることになります。一年たつと雨や風で泥が溜まったり、排水路が流れなくなったりとそのままでは田植えにならないのです。

一方我が家の大根は、この寒さで傷んできました。マイナス5度6日の日が続くとさすがに葉がしおれ、首が凍結して傷みが目立つようになったのでおしまいになります。とは言え土中部分の傷んでない部分は食べられますので読者の方でそれでいいという方は差し上げますので声をかけてください。

今週のおまかせ宅配セットは、人参、小松菜、トンネル大根、サツマイモ。ほうれん草、里芋、長ネギ、キャベツ、ゴボウ、サニーレタスですが、サニーレタスを除いては温野菜で食べていただくのがよろしいと思います。

真冬の旬の野菜達です。自然の力で育った野菜でこの冬を、そしてコロナに負けなからだ作りを心がけて乗り切りましょう！

おかげさま農場・高柳功  
(産地の声)vol. 1474

2021. 2. 3

昨日は節分。私の歴史では初めての2月2日の節分でした。前日、連れ合いと節分は3日だ！と言い合っていたのですが、私の間違いでした。120数年ぶりの事件？なのでしたから、間違っても由としましょう。

地球が一周する時間を24時間にするのはいいとしても、太陽を一周する時間を365日と6時間かかるので4年に1回うるう年をつくることによって間に合わせてきたというのですが、それでも数分の違いがあり、地球時間と太陽時間のわずかなすりあわせと言うことなのでしょう。

ということで、節分が過ぎると畑の野菜は春を感じて動き始めています。太陽光線が強くなってくると言うこともありますが、畑のタマネギの勢いが増しているのがわかります。

一月までは寒さの中をじっとこらえている感じでした。家の前の小麦も心なしか成長し、ハウスの小カブも急に青々としてきた風です。

サツマイモの苗づくりも始まっています。これから人参やジャガイモなどの植え付け、種まきが始まります。私たちの仲間もすでに蒔き始めています。種を蒔いたらすぐにトンネルをかけます。寒いのでトンネルをかけないと持ちません。

さらにトマトやナスなどの種まきも始まります。種まきの前に施肥、耕耘と行った準備が欠かせません。今日は、ジャガイモ植え付け予定の畑にトラクターを入れ耕耘し

ました。ジャンパーの上にもう一枚、ズボンはさらに防寒ズボンをはき、手袋をしての重装備で畑に入りました。

どんな裾風も入れないぞ！といった感じです。顔だけが少々寒い感じでしたがほぼ無事で帰ってきました。

今冬は例年にない寒さだったような感じがします。それでも雑草はめげない！ホームステイしている娘さんには、草取りをやってもらっています。連れ合いもタマネギや小カブ、ネギの畝や株間の草取りです。生き物に休みはないです。

世間は、緊急事態宣言の継続となったようです。平安時代末期に末法思想がはやったと何かの本に書いてあったことを思い出すのですが、まさかの感がします。

そうあってほしくはありませんが、これまでのありようが崩れてきたように思うのですがどうでしょうか。そもそも人は人との交流があって社会を構成してきたはずなのに、今は密はいけないと本来の世のありようにこれでいいのか、と素朴に思ってしまうのですが、、、。私の方がおかしいのかも知れません。

おかげさま農場・高柳功  
(産地の声) vol. 1475

2021. 2. 10

人間は動物の一種です。だから生きてゆく上で、食事とは切っても切れない縁があります。食べるために生きるか、生きるために食べるのか。それこそ人生の大問題ですね。

食べるために生きた高度経済成長の結果、日本は豊かになりました。そして心が亡びました。もう一度、生きるために食べる生活に目を移して、失った日本人の美しい心を取り戻さなければなりません。

「米の重さ」と題してのお坊さんのお話です。書かれたのは1993年。今から28年前のことです。5歳の時から「舍利札門」という短いお経唱えて寒行托鉢をしたというのです。

昭和21年生まれの方です。戦後の食糧難でしたので、文字通り「食を乞う」修行でした。禅宗では食事が悟りそのものですから、食して悟らなければならないのです。と結んでいます。

そのお坊さんが29歳で永平寺に修行に入ったのですが、それまでの10年くらいは贅沢三昧で体重80kgあったのが2週間で30kgも減ったという。永平寺の修行のすさまじさがわかるでしょうと。

また、一永平寺の食事は、一日12~13百カロリーしかなく、毎年福井県衛生局の方から食事改善の忠告があるそうです。そうすると永平寺の役寮（責任者）は、「福井県ができてから何年ですか。そう百年。永平寺は七百年以上、この食事です」と、これで話しは終わりです。

面白い話しです。今の永平寺がどうなっているか知りませんが、それでも7百年という伝統を今も続けてきているということ。それでも人間は生き続けることができる、ということに驚きを覚えます。

そういうギリギリの食事をすると食べ物のありがたさが身にしみることになるでしょう。人は他の生き物の命を戴いて生きています。お米の命、大根や人参の命に手を合わせ「もろもろも命を戴かせていただきます」と唱えます。

ですが、その後いただきますは宗教語だから行ってはいけない、お金を払っているのだから言う必要ない、などということも聞きました。

日本人の食べ残しは6百万トンを超え、世界中の食糧援助に勝るといいます。自然

の恵みへの感謝を忘れ、心が亡びるといふ、そんなところから日本人の劣化が始まったのかも知れません。永平寺、コロナ大丈夫かな。 合掌

おかげさま農場・高柳功  
(産地の声) vol. 1476

2021. 2. 17

このところ、溜め込んでおいた録画を見ました。シベリアのツンドラ地帯をゆく、という内容でしたがかかってない変化が現れている、という内容です。

北極の氷が溶け、氷の上で餌を採り暮らしていたシロクマの場が失われ、痩せ細り人間の住む居住区に現れるようになったこと。かもめの営巣が奪われて繁殖行動ができず住居の屋根に群れるようになった。

例年北極の氷の上で菜食行動をしていたトナカイの群れが河が凍らないため移動ができず、牧畜民も途方に暮れている。これらは生態系の心配。

またシベリアのツンドラ地方は凍土地帯と呼ばれる凍土の上にタイガと呼ばれる森林が（オーストラリア大陸よりも広い面積に匹敵する）広がっているが、温暖化の影響とみられる現象で、地温が上がり始めていること。

乾燥化が始まり、雨の降らない雷が発生するようになってきていること。それによっていったん火災が発生すると山林火災が手に負えないほど広がってしまうこと。これらが地球全体に及ぼす影響は計り知れないと。

そうしたことに加え、地中に蓄えられていた炭素が吹き出すようになってきている。一酸化炭素は二酸化炭素よりより温暖化を加速すると言われており、各所で炭素の出現と思われる地層変化が起きている。地中に溜め込んだ炭素が大気中に吐き出されれば人間の力の及ぶところではなくなる。

なぜならば数千年数万年かけて溜め込まれた炭素がここ数年で出始めたものを人間の力では及ばないだろう。などと物騒な話しでした。

続いて見たのが、司馬遼太郎の世界—NHKBS アメリカ紀行でした。内容は省きますが、放送最後の司馬遼太郎の遺言とも呼ばれる〈21世紀に生きる君たちへ〉の一部が朗読され、印象的でした。以下、歴史とは何でしょうと問いつつ—

「昔も今も未来も変わらないことがある。

自然こそ不変の価値なのである。20世紀という現代は、ある意味では自然へのおそれが薄くなった時代と言える。おそらく自然に対して威張り返っていた時代は、21世紀に近づくにつれて変わってゆくに違いない。

「人間は自分で生きている」のではなく、大きな存在によって生かされている。この自然への素直な態度こそ21世紀への希望であり、君たちへの期待でもある。そういう素直さを君たちがもち、その気分を広めてほしいのである。」

20世紀に書かれたことですが、今こそ心に留め置くことのように思います。

おかげさま農場・高柳  
(産地の声) vol. 1477

2021. 2. 24

今日は、2人の国会議員がきました。農業現場で生きる皆さんの現実、そして課題などを伺いたいと来られたのでした。有機農業をしている仲間から「一緒に有機農業の話をしてくれないか」ということで賛同。

その仲間は、草生栽培と言われる栽培で、草も生き物だとして無駄にせず抜いた草

を草マルチだなどと言う独自の栽培です。ポリマルチも使わず、自然物だけで育て自然の成長に任せると行った農法です。

その彼の知り合いが議員さんと知り合いで、今日の話し合いとなったのです。午前中に彼の畑を案内し、午後におかげさま農場に到着。コロナ対策中なので昼食は別々にとりたいたと慎重な対応でした。

こちらは農家6人が参加し、各々の取り組んだ訳と、農業の話をしつつの自己紹介から始まりました。

一人は、須藤元気さんと言う元総合格闘家という人です。私は全く知らない方でどんな人かと思ったのですが、気さくな方で私たちの話も丁寧に聞いてくれました。実家が割烹料理屋で、一方格闘家としての身体作りをしてきた中で、「何を食べるか」が人間の身体を変えてゆくことを実感してきた。

日本には素晴らしい文化がありその一つが食文化。一方で農薬の過剰な使用、種子法廃止による遺伝子組み換え食品の不安を覚える。食の安全を守るための政治、「安心して食べられる、そんな日本食の伝統を取り戻したい」そんな議員さんでした。

もうひとかたは、秋田県選出の寺田静さん。お子さんがいて食べ物の大切さを思う。須藤さんと同じく安全で健康な食事が大切と考える方で、須藤さんの企画に乗って一緒に来られたとのこと。

呼びかけ人の佐久間さんが誘った八木さんは遠く房州の方から駆けつけてくれました。有機農業は単に栽培技術だけの問題ではない、地域と環境を守ると言うことではないか。そこには将来を見通した自然と人間の関係を築くものなのではないか、などと・・・。

議員さんも偉ぶることなく、参加した農家の皆さんも忌憚のない話しぶりでいい雰囲気勉強会を終えました。政党ではなく政治家個人の考えが見える良い話し合いでした。

ちば境再生県民の会広報・第42号・発行日：2021年・3月25日

会費：個人会員：1口1,000円以上・団体会員：1口2,000円：賛助会員：1口3000円以上  
：寄付金など郵便振替口座番号：00140-4-545339・加入者：ちば環境再生県民の会  
発行者：ちば環境再生県民の会発行責任者・中岡丈恵〒277-0803 松戸市六高台4-154  
電話/FAX：047-385-8950 E-mail：naka.hta@kzc.biglobe.ne.jp